

## 患者説明文書

造血器疾患に合併した真菌血症症例の予後因子マーカーの抽出と至適抗真菌療法の検討  
臨床研究へのご協力をお願い

### 1. 研究の目的と方法

血液疾患の治療中は重度の免疫抑制状態に置かれます。このため、真菌（カビ）が血液内に侵入して感染症を発症することがあり、これは真菌血症と呼ばれます。血液疾患の治療中の患者さんは真菌血症を合併した場合、重篤な病状になることが少なくありません。

真菌感染が今後重篤になるかを予測する因子を予後因子といいます。これまで報告されている真菌血症や、真菌が体内に感染する侵襲性真菌症の予後因子は、必ずしも治療応用に結びつき、患者さんの予後を改善させるマーカーとしての意義は持ち合わせていません。

今回の研究では、これまで当院血液内科で、血液疾患に合併した真菌血症を診断、治療した患者さんについて、真菌血症を発症する前もしくは発症早期に変動する予後因子を見つけ出すことによって、治療方針の決定を助けてくれる予後因子マーカーを同定し、適正な抗真菌薬投与方法を検討することを目標とします。

### 2. 実施担当医師

京都第一赤十字病院血液内科 研究統括医師：松本洋典（副部長）

研究分担医師：内山人二（部長）、岩井俊樹（副部長）、古林 勉（副部長）、大城宗生（医長）、中村隆久（専攻医）、中山里菜（専攻医）、加藤大思（専攻医）

### 3. 研究の方法

2000年1月1日から2022年2月28日に当科で経験した、血液疾患に合併した真菌血症患者さんを対象として、カルテから得られる臨床所見を解析します。本研究の結果は、個人情報保護に十分な配慮を行った形で、学会発表、医学論文として公表する予定です。

### 4. 患者さんの利益、不利益(リスク)および同意取得

本研究は、通常の診療情報の解析のみを行うもので、患者さんへ利益も不利益も生じません。本研究の参加に関しては、本掲示をもって文書同意に変えますが、同意頂けました場合は、研究への参加を取り消しますので、下記までご連絡下さい。

### 5. 研究事務局、患者問い合わせ窓口

〒605-0981 京都市東山区本町15丁目749番地 京都第一赤十字病院血液内科

電話 075-561-1121 (代表) FAX 075-561-6308

研究統括医師 松本 洋典